

授業科目名	企業メセナ論	担当教員	小林 瑠音
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年第1クォーター		
講義内容	<p>企業メセナとは、企業による短期的な経済的見返りを求めない芸術文化への支援活動であるが、長期的には、芸術文化は社会のイノベーションに寄与し、経済の活性化にも貢献してきた。本講義では、企業メセナの歴史および具体的な形態と事例を学ぶとともに、今日的な課題について考察する。また、日本において企業メセナの礎を築いてきた代表的な実業家の思想や活動、海外の事例を概観する。ここでは対象をいわゆる芸術領域（演劇、音楽、舞踊、美術など）には限定せず、デザインやものづくり、生活文化や郷土芸能にまで広げ、芸術文化と経済と地域社会の関係を、人間の創造性の観点から多角的に考察する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業メセナについて、その語源と歴史的変遷について理解する。 ・企業メセナの形態と国内外の事例について理解する。 ・日本において企業メセナの礎を築いてきた実業家について、その思想や活動実績を理解する。 ・企業メセナが抱える今日的課題について概要を説明し、自分の見解を述べることができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 企業メセナとは：「パトロネージュ」「三方よし」 3. 企業メセナとは：「企業の社会的責任」(CSR)ースポンサーシップからフィランソロピーへ 4. 企業メセナ協議会：理念と変遷 5. 実業家に学ぶ①小林一三（阪急電鉄） 6. 実業家に学ぶ②佐治敬三（サントリー） 7. 実業家に学ぶ③堤清二（西武） 8. 実業家に学ぶ④：絵画蒐集と美術館ー松方幸次郎（川崎重工業）、石橋正二郎（ブリヂストン）、大原孫三郎・總一郎（クラレ）、福原義春（資生堂） 9. 国内事例 10. 国内事例 11. 海外事例：フランスの ADMICAL、アメリカの BCA、イギリスの ABSA、 12. まとめ 		
事前・事後学習	毎回の授業で学んだ内容に関するミニレポートを作成し、提出すること。		
テキスト	各回の授業において資料を配布する。		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
成績評価の基準	授業内での発言(25%)、各回小レポート(25%)、最終レポート(50%)		

履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員 50 名を超えた場合は、抽選を実施する。